フローリングを綺麗に保つ為のメンテナンス方法について

1. 日常のお手入れ

① 乾いた布やダストモップ（化学雑巾）等で乾拭きするか箒や掃除機等で床の埃を取り除いてください。
（濡れた雑巾やモップ等は絶対に使用しないでください。）特に汚れが著しい箇所には水溶性の
洗浄剤をモップ等に浸透させ拭きとり後、更に乾いた布等で拭き取るようにしてください。直接床に
洗浄剤を吹付けると変色等の原因となりますのでご注意ください。

② 水や油をこぼさないようにご注意ください。万が一、不注意でこぼしてしまった場合は、
速やかに乾いた布などで拭き取ってください。
（水分の影響により膨張や反り等の不具合が生じ歩行に支障を及ぼす場合があります。）

③ 油性の汚れや靴跡は、ベンジンやアルコール等を布に浸透させ拭き取ってください。
※ワックス掛けされている場合には、上記溶剤でワックスが溶かされ白化や艶濁りなどの
原因となる場合があるので、ワックス容器に記載されている洗剤、又は水溶性の洗浄希釈液を
使用してください。

④ 頑固な汚れの原因となるガムや絵具、墨などを付着させないようにご注意ください。

⑤ 出入り口などで埃や水気の多い場所には必ず防塵マット等をご使用ください。

⑥ 塗装仕上げのフローリングには、前述の日常手入れで十分でありノンワックスでも御使用頂けますが、
ワックスを塗布する事を検討する場合には必ずワックスメーカーの取扱説明書及び注意書きを熟読し
検討するようにしてください。
尚、ワックス塗布による不具合について、当社は免責とさせて頂きます。
推奨品：『株式会社リンレイ ハイテクフローリングコート』

2. 日常生活での注意

① 天然木は直接日光の紫外線や照明器具により変色することがありますので、太陽光の直射は
カーテンやブラインド等にて全体を遮るようにしてください。また、置敷カーペット等によって
部分的に敷くと色違いが目立つようになる場合があります。

② 机、椅子、家具などの床と接触する部分を、ゴムキャップやフェルト等で保護してください。
（プラスチック製のキャップの中で床に傷をつける物は避けてください。）

③ 鉄製やプラスチック製の車輪がついた椅子や家具は床表面の塗膜や基材を傷つける場合があります。
（ゴム製の物をお勧めします。）

④ 重量物や硬い物を落とさないように注意してください。

⑤ 木質フローリングは水気を嫌います。長時間濡れたままにしておくと、膨張・ひび割れやシミ・変色の
原因となりますので速やかに拭き取ってください。
対策例） ・観葉植物等の鉢には必ず水受け用皿等を敷く。
・水廻りで水が飛び散る恐れがある場所にマットを敷いて事前に保護する。
（マットが濡れて染み込まないように頻繁に乾いたマットに取りかえる。）
・水バケツ等を運ぶ際は事前にビニールシートなどで養生する。

3. 床暖房使用時の注意

① 温度の上げすぎに気を付けてください。身体に害を及ぼすだけではなく、床暖房設備そのものの故障の原因やフローリングに悪影響を及ぼす場合があります。
床表面温度は 25℃～27℃に維持し、室内の湿度を 50％～60％以内に保って下さい。
（冬場などの乾燥時期は加湿器の併用をお勧めします。）

② 床暖房をしたまま床面に長時間接していますと低温やけどになる恐れがあります。
お子様（特に乳幼児）や身体の不自由な方には周囲の方が十分に注意してあげてください。

③ 床暖房は衣類の乾燥などの目的で使用しないでください。

④ 高温になる器具（低床吹出しファンヒーターや電気カーペット等）と併用して床暖房をご使用は避けてください。床表面がひび割れしたり、継ぎ目に隙間が生じる恐れがあります。

⑤ ピアノなど極端に重いものや、布団・絨毯、床面積の広い家具、床面との隙間が極端に狭い家具など、放熱の妨げになるようなものを床暖房を施工したフローリングの上に置かないでください。熱がこもる原因となり家具や調度品などに歪みや狂いが生じます。
特に重量物は床暖房設備が破損したり、ピアノでは音が狂うことがあります。

⑥ 暖房した床面にカーペットを敷かないでください。熱がこもって床面が傷みます。

⑦ 床暖房使用期間中は低温での連続運転をお願い致します。

その他、床暖房設備メーカーの取扱説明書及び注意事項を遵守してください。

4. その他

① フローリングは常態呼吸をしますので遮蔽物を長時間置かないでください。

② 結露した場合は、直ぐに乾いた布等で拭いてください。

③ 家具や造作材の為にも温度や湿度（50％以上 60％以内）を考慮した計画換気を行ってください。
また、空気が乾燥する事が続くと木質が乾燥し若干隙間が開くことがありますが、空気の湿度が多い季節になると元に戻りますので、隙間に硬い詰め物をしないでください。

注意事項:
水分や湿気には特に気を付けてください。
木には空気中の湿度が高いと湿気を吸収して伸び、乾燥してくると湿気を放出し縮む性質があります。これは生き物である木材を使用している以上やむ得ない現象です。

以上の注意事項を守って頂かないと、フローリングの表面に割れが発生したりカップ状に反る等の異常が起きますので十分に御注意願います。

有限会社クロキ創建